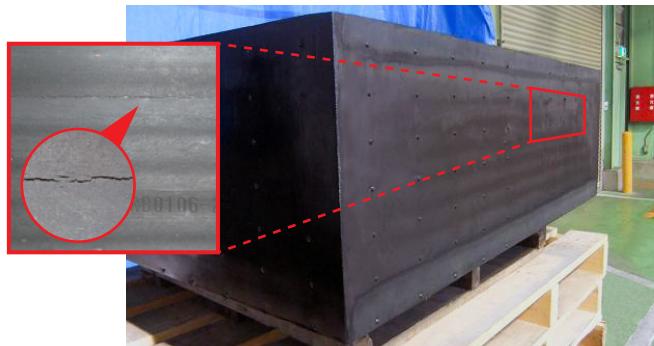
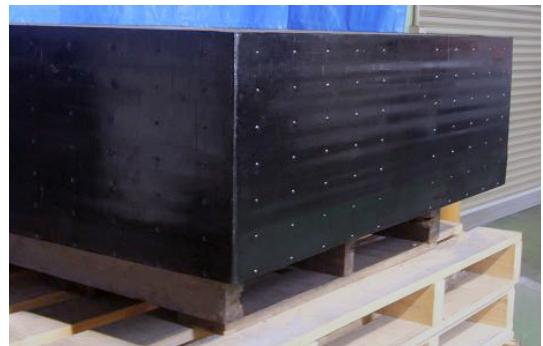


ゴム支承において、過酷な条件下での使用はオゾンクラックによる損傷が発生します。損傷を放置すると、損傷が拡大する可能性も考えられるため、早期の補修が望まれます。その補修方法の一つとして、被覆ゴムにコーティングする方法があります。本技術は耐候性はもちろん、ゴム支承に生じるせん断変形への追随性も兼ね備えています。



コーティング前



コーティング後

## 本技術の特徴

- ① 被覆ゴムに耐候性にすぐれたポリマーを主成分としたコーティング材を塗布することで、道路橋支承便覧規格値の10倍以上の耐オゾン性を確保。
- ② ゴム支承のせん断変形に対して、せん断ひずみ300%以上の優れた変形追随性を有する。

## 耐オゾン性試験

コーティング被膜の有無、種類に着目した耐オゾン性の比較試験結果を以下に示します。  
試験概要是 JIS K6259 に準拠しています。

**試験概要及び試験結果** 道路橋支承便覧(H30) 40°C × 50pphm × 50%伸長 96hでクラックのない事

コーティングの種類	コーティングなし	シリコンコーティング	K-Coat-R
耐オゾン性試験結果	24h以内にクラック発生	260hで被膜損傷発生	1000h以上で問題なし

※コーティング材の評価に着目した実験のため、通常のゴム層とは異なり、ゴム材料自体には耐オゾン性を与えることなく試験を実施いたしました。  
そのため「コーティングなし」では早期にクラックが発生

**構造物施工管理要領(NEXCO各社 令和7年7月)** 40°C (-30°C) × 200pphm × 80%伸長 408hでクラックのない事

試験時間	-30°C	40°C
耐オゾン性試験結果	408hで問題なし	3000h以上で問題なし